

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第12回 未来の扉

世の中には、当たり前だと思っていることが、当たり前
にできない子供たちがたくさんいます。

たとえば、病気で学校に行けない子供たち。
春には遠足に行き、運動会でお弁当を食べる。
お母さんと一緒にベッドで眠る。
そんな当たり前のことが、かなわない子供たちがたく
さんいます。

私は税理士として、女性だけの会計事務所を主宰する
かわら、戸沢暢美財団の理事長を拝命しています。戸沢
暢美財団とは、作家だった戸沢暢美が、遺った財産を恵
まれない子供たちに寄付して欲しいと願ってつくった団
体です。

戸沢さんは、私の20年来のクライアントでした。ある日
彼女から、かかってきた一本の電話。

「悪いニュースでごめんね。」

最初に彼女が言った言葉です。重い病気なのは知って
いたので、私の心臓はズンと重くなりました。「お医者様
から、もうそろそろ、誰かにアトのことを頼んでおけと言
われたの」

頼めるのは原さんしかいないと、泣きながら遠慮がち
に言った声は、いまでも忘れられません。

作家だった彼女は、自分の生命と引き換えに、世の中
に言葉を紡ぎながら生きていました。代表曲は、嵐の「感
謝カンゲキ雨嵐」でしょうか。

一人で生きてきたのだから、一人で死ぬの。原さんがいて
くれるから、何も心配しなくてすむわ。

そして、「その時」がくるまでの半年間、彼女は毅然と生
き抜きました。友だちにも、仕事仲間にも、親戚にすら伝
えず、一人で病気と戦って、文字どおり一人で逝ってしま
いました。亡くなったあとに投函して欲しいと、「さよな
らの手紙」を私に託して。

彼女が涙を流したのは、最初の電話のときと、最後に息
を引き取る瞬間だけでした。いえ、正確に言うと、息を引
き取った後かもしれません。最後に、ひとつ大きく息を吐
いたあと、看護師さんから、「まだ聞こえていますよ」と言
われ、「ずっと忘れないから!!」と耳元で叫んだ私の声に
呼応するように、彼女は一筋の涙を流しました。

あれから、3年半がたちます。私の手元には、少しばかり
の財産と、まだ見ぬ子供たちに送る言葉「未来の扉」が

残されました。

寄付するとき、お金と一緒に子供たちに渡す「言葉」があ
るといいよね。

残された時間で、何か生き甲斐を見つけて欲しいと、私
の思いつきのような提案でしたが、「未来の扉」は、枕元
のノートに、走り書きされていました。彼女はどんな思い
で、この言葉を書き記したのでしょうか。完ぺき主義だった
彼女のこと、もっともっと、推敲したかったに違いありま
せん。

この「言葉」が子供たちの手に渡るとき、自分の生命
はこの世にないという残酷な現実。恐ろしいイマジネー
ションと戦いながら、彼女が生み出す言葉は、びっくりす
る程生きる勇気に満ち溢れています。

【未来の扉】

君の未来は 君の手の中
人の希望は ひたむきに生きる君の横顔

ひたむきに生きる 君の背中を
希望の光が あと押しする

君は希望 / 君は君を生きる希望
生きるちからは 少しの勇気が連れてくる

君のいのちは ひたむきに脈うつ

勇気は うずいているか？

ひたむきにいきる ということは
自分を信じるということ
(そして それは誰かをほげます) ことがある

君の小さな情熱が
未来で大きな形になるんだ

空のかなたをあおぎ見る
君は遠くへ行きたいんだね

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後
に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグロー
バル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会
社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画
書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っ
ていくための士業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株
式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

行くんだね
行くだろう

悲しみは 君を強くする

どんなに世間を敵にしても
君の瞳は 空を映す

悲しみという なまけものに
そっと手を振る人になる

夢中で何かに向かうとき
人はいちばん生きている

(作詩 戸沢暢美)

彼女と私は、クライアントと税理士という関係にす
ぎませんでした。20年というつき合いの中でプライ
ベートな生活も、そんなに知っていたわけではありま
せん。でも彼女が亡くなってからの方が、彼女の生き
方、思想、想いを、とても身近に感じます。誤解を恐れ
ずに言うなら、彼女の魂が私の中で生き続けているよ
うな気がしています。

ヒトはすごい。
肉体は減びても、想いは残るのです。

彼女のおかげで、私はこれまで全く縁のなかった
社会貢献事業というものに、携わることができるよう

になりました。そのご縁で、NPO活動をしている人や、
草の根的にボランティア活動をしているたくさんの人
たちと出会うことができている。彼女がいなければ、
一生、関わる事がなかったであろう世界の人たちと、
繋がる事ができています。

冒頭に書いた、学校に行けない、親と暮らすこともでき
ない重い病気の子供たち。

震災で親を亡くした子供たち。中には、心ある企業な
どから援助を受けて、大学に通う子供もいます。でも彼ら
は、震災孤児だと知られるのを恐れています。孤児のくせ
に…。そう言われるのを恐れているからです。

幼少時に親から虐待やネグレクトを受けた子供たち。
彼らは、親に捨てられた子供ではありません。彼らが親を
捨てて生きていくのです。親を捨てる覚悟のできた子供
だけが、生き延びられるからです。

戸沢暢美財団は、そんな子供たちが、少しでも笑顔に
なれるお手伝いをしています。戸沢暢美は死んでしま
いましたが、彼女の生命は未来に繋がっているのです。そ
して、私もそんな子供たちに救われています。

楽しいことより、辛いことの多い毎日。イライラしたり
、他人にあたり、落ち込んだりの繰り返し。そんな
とき、私は財団の活動を通じて知った子供たちのことを
考えます。

今まで当たり前だと思っていたことが、全然、当たり前
なんかじゃなかった!! 私はこんなにも恵まれている、と。
そうすると不思議なことに、悩んでいたことが、何とか
解決するのです。

もし読者の皆さんで、戸沢暢美財団の活動に興味のあ
る方がいらしたら、ぜひ財団のホームページからアクセ
スしてくださいね!

<http://www.tozawazaidan.com>

好評
発売中

一生食っていくための「士業」の営業術

原 尚美 著(中経出版)

1,500円+税

カネなし。客なし。コネなし。
開業と同時に出産したため、普通の新人ならたつぷりあるはずの、時間もなし。
文字通りゼロからスタートした会計事務所を、女性だけのスタッフ22名の規模
にまで成長させたノウハウについて書いた本です。
特別なスキルもコネも持たない、すべての平凡な個人事業者に、ビジネス拡大
のヒントが満載です。

